



国立民族学博物館 友の会ニュース

MINPAKU ASSOCIATES NEWSLETTER

No. 272

2022.3 ▶ 4

「国立民族学博物館友の会」は「みんぱく（国立民族学博物館）」の活動を支援し、博物館を楽しく、積極的に活用するためにつくられました。

発行日 2022年3月1日
編集・発行 公益財団法人千里文化財団

実行委員長インタビュー

島村 一平 先生

日本・モンゴル外交関係樹立50周年記念特別展「邂逅する写真たち——モンゴルの100年前と今」

新たなモンゴルの姿に 出逢ってほしい。



——展示について教えてください。

およそ一〇〇年前、欧米の探検家や宣教師たちは中央アジアを目指し、モンゴルに到達しました。彼らは当時の様子を多くの写真にのこしています。この特別展では、一〇〇年前と現代のモンゴルの姿を写真とおして紹介します。現代の写真は、モンゴル人のドキュメンタリー写真家B・インジャーシ氏にお願いしました。

展示場は過去と現代の写真を対峙させるような構成にしています。一階では一〇〇年前と現代のウランバートルの日常を、二階ではモンゴル高原で撮影された探検家らの写真とともに、現代の草原世界の様子を紹介しています。

モンゴル国の首都ウランバートルは一〇〇年前、ボグド・ハーン（活仏ジェブツンダンバ・ホクトクト八世）が治める



宗教都市にして政治、外商の拠点でもありました。モンゴルの人びとに「フレー（寺院・囲い）」もしくは「ウルグー（宮殿）」と呼ばれ習わされたこの都市を、欧米からの来訪者たちは「ウルガ」と呼びました。ウルガの中心部には、黄金の高殿を頂くゲル型の寺院宮殿がありました。この宮殿を囲むかのように僧坊や市場が建ち並び、郊外には漢人の商業区、買売城もありました。特別展では一〇〇年前のモンゴルに來訪したロシア、フィンランド、ポーランド、ノルウェー、スウェーデン、アメリカ、日本の探検家たちの写真を展示します。フランスのアルベール・カラン美術館から提供していただいた当時の宮殿の貴重なカラー写真も展示します。

一方、現代の首都ウランバートルは、高層ビルが林立し、国民の約半数に当たる二六〇万人が居住する大都市へ

【会期】2022年3月17日(木)–5月31日(火)

【会場】国立民族学博物館 特別展示館

企画展

焼畑——佐々木高明の見た五木村、そして世界へ

焼畑は人類の歴史とともに長い伝統を持ち、現在でも熱帯地域では欠かせない生業基盤のひとつになっています。東南アジアなどでは森林破壊の原因のひとつとして見られ負のイメージが強い一方、今日の日本では自然に優しい持続型農法として注目されています。

本展では、佐々木高明が熊本県五木村で撮影した焼畑の写真や現地で使用されてきた道具のほか、各地域の焼畑の特徴を紹介します。五木村を中心に、世界各地の焼畑をとおして、人と自然との共生のあり方について考えます。



会期
2022年3月10日(木)
～6月7日(火)

会場
国立民族学博物館
本館 企画展示場

友の会機関誌『季刊民族学』177号でも関連特集を組んでいます。5月7日(土)の友の会講演会では本企画展関連の話題です。



草原の若者たち 1909年/S. パルシ撮影/フィンランド文化遺産庁
民俗学画像コレクション © The Finnish Heritage Agency

と姿を変えました。かつて活仏の寺院
宮殿があつた場所には政府宮殿が建ち、
チンギス・ハーン像が鎮座しています。
都心の周縁部には、首都に流入してき
た遊牧民が居住する通称「ゲル地区」
が無秩序に広がり、拡大の二途をたどっ
ています。

草原世界に目を向けてみると、定住
化が進み、主要となる産業も牧畜（遊
牧）から鉱業へと変化しました。草原
が観光資源である一方で、鉱山開発に
起因する大気汚染は深刻な社会問題
にもなっています。こうした現代のモ
ンゴルの実像を、B・インジナーシ氏の
写真で紹介します。

—B・インジナーシ氏について教え
てください。

彼は一九八九年、ウランバートルに生

特別展は二〇〇年の時空を
超えた邂逅。つまり「出逢い」
をテーマにしています。展示
場では三つの出逢いを体験す
ることができるでしょう。ひ
とつは「過去と現在との出逢

まれました。ニューヨークのマグナム
財団のフェローシップを獲得後、国際
的な注目を浴び、『ナショナルジオグラ
フィック』や『ポスト』などのメディ
アでも取り上げられるようになります。
彼は、現在のモンゴルが直面する社
会問題を写真で語り、階層化
が進む社会の矛盾を伝える声
になりたいと話します。彼が
とらえるモンゴルは、草原の
遊牧民など、ステレオタイプ
なモンゴル像ではありません。
モンゴルの今を伝えるのに適
任だと考え、協力をお願いし
ました。

まれました。ニューヨークのマグナム
財団のフェローシップを獲得後、国際
的な注目を浴び、『ナショナルジオグラ
フィック』や『ポスト』などのメディ
アでも取り上げられるようになります。
彼は、現在のモンゴルが直面する社
会問題を写真で語り、階層化
が進む社会の矛盾を伝える声
になりたいと話します。彼が
とらえるモンゴルは、草原の
遊牧民など、ステレオタイプ
なモンゴル像ではありません。
モンゴルの今を伝えるのに適
任だと考え、協力をお願いし
ました。



上：一生懸命に勉強する子どもたち 2017年
下：シャングリラ・モールにて 2021年
いずれもB. インジナーシ撮影 © Injinaash, Bor

第521回みんなくゼミナール（5月21日開催）には
インジナーシ氏も登壇予定です！

い」。二〇世紀の二〇〇年を見つめる
ことでモンゴルの近代化と都市化の実
態が可視化されます。ふたつ目は「都
市世界との出逢い」。一般的にモンゴル
というと、遊牧民や大草原、モンゴル
相撲といったイメージが強いかもしれ
ませんが、現在、遊牧民は全国民の九
パーセントを占めるに過ぎません。国
際都市として機能し続けてきたウルガ
とウランバートルの姿をぜひご覧くだ
さい。そして三つ目は「他者と自己の
まなざしとの出逢い」です。一〇〇年
前と現代では撮影者の視点は大きく
異なります。前者は来訪者である探検
家、後者はモンゴル人自身のまなざし
が写真に現れます。過去と現在を比
較することで自己表象と他者表象と
の違いも浮き彫りになることでしょう。
この特別展をとおして、従来のイ
メージとは異なる新たなモンゴルの姿
に出逢っていただければ嬉しいのです。
（聞き手・事務局）

地球規模の環境問題をモンゴルを例に考えます

特別展関連 友の会講演会

第523回友の会講演会

モンゴルとSDGs



山極 壽一



小長谷 有紀

講師 山極 壽一（総合地球環境学研究所所長）

小長谷 有紀（民博客員教授、日本学術振興会監事）

日時 4月2日（土）13:30～15:00（開場13:00）

会場 みんなくインテリジェントホール（講堂）

- ・要事前申込、先着順（一般受付は3/1～）。
- ・参加方法は会場／オンラインよりお選びください。
- ・友の会会員 無料（会場もしくはオンライン参加）
一般 500円（会場参加のみ）

催しの詳細は5ページをご覧ください。



図録

日本・モンゴル外交関係樹立50周年記念特別展

邂逅する写真たち——モンゴルの100年前と今



特別展の展示資料より選り
すぐりの約230点を写真集
風にまとめました。表紙カ
バーは2種類。お好みのデ
ザインをお選びください。

島村一平 編
国立民族学博物館 発行

会員価格 2,404円（税込）

定価 2,530円（税込）

サイズ：縦225mm×横200mm
本文200ページ

お問い合わせ

国立民族学博物館ミュージアム・ショップ（水曜日定休）

e-mail shop@senri-f.or.jp

オンラインショップ「World Wide Bazaar」

<https://www.senri-f.or.jp/shop/>

巡回展のご案内

高知県立歴史民俗資料館 特別展

驚異と怪異 ——世界の幻獣と霊獣たち

会 期：2022年4月29日(金・祝)～6月26日(日)

会 場：高知県立歴史民俗資料館



2019年秋にみんぱくで開催した特別展「驚異と怪異」の一部資料が高知県にまわります。みんぱくで展示された資料のほか、本展独自の資料も加わります。常識や慣習から逸脱した「異」なるものをめぐる人間の心の働き、豊かな想像力にいま一度ふれてみませんか。会期中にはみんぱくの山中由里子先生のレクチャーも予定しています。

開館時間
9時～17時(会期中無休)

観覧料
大人800円、高校生以下無料(各種割引あり)
みんぱく友の会会員は会員証の提示で割引料金になります。

高知県立歴史民俗資料館
<https://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~rekimin/>



新型コロナウイルス感染症の影響等により予定を変更する場合があります。ご来場の際は、あらかじめ資料館 WEB サイトをご確認ください。

国立民族学博物館友の会 2022年度上半期の予定

季刊民族学.....

180号(4月30日発行)

嗜好品——つくる・映える・やみつきになる(仮)

181号(7月31日発行)

沖縄と出会う(仮)

友の会講演会.....

4/2(土)

【特別展関連】モンゴルとSDGs

山極壽一(総合地球環境学研究所所長)

小長谷有紀(民博客員教授、日本学術振興会監事)

5/7(土)

【企画展関連】佐々木高明を語る——研究とその人物像

ヨーゼフ・クライナー(ボン大学名誉教授)

宇野文男(元福井大学教授)、池谷和信(民博教授)

6/4(土)

調整中

7/2(土)

アボリジニの「酒狩り」(仮) 平野智佳子

8/6(土)

みんぱくの資料から日系移民の足跡をさぐる(仮)

丹羽典生

9/3(土)

【特別展関連】言語について(仮) 吉岡乾

東京講演会、体験セミナー、民族学研修の旅は、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながら計画をいたします。決まり次第ご案内いたします。

東京講演会 実施報告

■第129回■2021年12月18日(土) 会場：日本点字図書館

【特別展「ユニバーサル・ミュージアム」さわる！「触」の大博覧会関連】

なぜさわるのか、どうさわるのか

——触察の新展開をめざして

山本清龍(東京大学大学院准教授)、広瀬浩二郎(民博准教授)

本講演会は二〇二一年秋にみんぱくで開催された特別展「ユニバーサル・ミュージアム」の会期終了後に実施しました。展示会場で体得した「触察」という行為をどのようにして博物館外での活動に取り入れることができるのか、その方法を探るべく「ユニバーサルなまち歩き」についてお話をうかがいました。

人と自然の空間的な関係、旅行者の行動や心理について研究を続けてこられた山本先生は、視覚障害者とともに野外教育プログラムを開発する研究活動をとおして広瀬先生と出会いました。その後、広瀬先生が中心メンバーをつとめ



空堀地区のまち歩き。視覚障害者と晴眼者が一緒になって楽しんだ(撮影：山本清龍、大阪府、2014年)

るユニバーサル・ミュージアム研究会のまち歩きに同行し、参加者の関心や触察の傾向のデータ化を試みます。障害の有無に限らず、誰もが楽しむことのできる観光のあり方を科学的な視点をふまえて検討しようとしたのです。滋賀県の信楽で開催したまち歩きでは、視覚障害者による多様な触察行動を分析しました。大阪市の空堀地区のまち歩きでは、散策の様子を撮影し、参加者の意識を把握しました。視覚障害者の感想に注目すると、周囲の音や外壁の感触、道の具合や削り節の匂いに関心を寄せるなど、五感を駆使したまち歩きへの傾向が得られたそうです。「ひとりですく時間がほしい」という感想もあり、リスク回避を第一に考えていた山本先生は、外界を知りたいという欲求に応えることの必要性も再認識したといいます。

こうした視覚障害者の声や行動は、晴眼者にとっても気づきや課題の見直しになるものと山本先生は語ります。特別展を振り返り、触察のマナーについて模索を続けていた広瀬先生は、こうしたデータの蓄積こそが、さわる展示の方法論を構築するうえで大切なのではないかと期待を寄せていました。(文・事務局)

みんぱくゼミナール、研究公演 会員先行予約のご案内

みんぱくゼミナール、みんぱく映画会、みんぱく研究公演には、維持会員、正会員、家族会員のみなさまを対象に
先行予約がございます。

会員先行予約は該当期間中に事務局までご連絡ください。会員先行予約が定員に達した場合は、一般受付をご利用ください。

催しの詳細、オンライン予約については、みんぱくホームページ内の各催しのご案内をご確認ください。



館内催しの詳細はこちら！ <https://www.minpaku.ac.jp/event/>

みんぱくゼミナール

第519回

【企画展「焼畑——佐々木高明の見た五木村、そして世界へ」関連】

焼畑は環境破壊か

——佐々木高明の研究とその後

講師 米家 泰作(京都大学教授)、佐藤 廉也(大阪大学教授)、
池谷 和信(民博教授)

日時 3月19日(土)13:30~15:00(開場13:00)

参加方法 ①みんぱくインテリジェントホール(講堂)(定員160名)
※オンライン配信はございません。

申込期間

■友の会電話先行受付(定員30名)
対象：維持会員、正会員、家族会員
※受付期間は終了しました。

■一般受付
・オンライン予約
期間：3月16日(水)まで
・当日参加受付(会場のみ、定員30名)

第520回

古代オアシス都市における 人びとの暮らしと宗教

——カフィル・カラ遺跡の発掘調査から

講師 寺村 裕史(民博准教授)

日時 4月16日(土)13:30~15:00(開場13:00)

参加方法 ①みんぱくインテリジェントホール(講堂)(定員160名)
②オンライン(ライブ配信)(定員300名)

申込期間

■友の会電話先行受付(定員30名)
対象：維持会員、正会員、家族会員
期間：3月14日(月)~18日(金)
※先行予約は会場参加が対象です。

■一般受付
・オンライン予約
期間：3月22日(火)~4月13日(水)
・当日参加受付(会場のみ、定員30名)

第521回

【特別展「邂逅する写真たち——モンゴルの100年前と今」関連】

ドキュメンタリー写真家 B. インジナーシが見た現代モンゴル

講師 B. インジナーシ(写真家)、港 千尋(写真家、多摩美術大学教授)、
川瀬 慈(民博准教授)

司会 島村 一平(民博准教授)

日時 5月21日(土)13:30~15:00(開場13:00)

参加方法 ①みんぱくインテリジェントホール(講堂)(定員160名)
②オンライン(ライブ配信)での参加(定員300名)

申込期間

■友の会電話先行受付(定員30名)
対象：維持会員、正会員、家族会員
期間：4月11日(月)~15日(金)
※先行予約は会場参加が対象です。

■一般受付
・オンライン予約
期間：4月18日(月)~5月18日(水)
・当日参加受付(会場のみ、定員30名)

みんぱく映画会

【企画展「焼畑——佐々木高明の見た五木村、そして世界へ」関連】

焼畑から見た日本の文化 上映作品「椿山——焼畑に生きる」

話者 野本 寛一(近畿大学名誉教授)、
川野 和昭(元鹿児島県歴史・美術センター黎明館学芸課長)
池谷 和信(民博教授)

日時 4月30日(土)13:00~16:00(開場12:30)

参加方法 ①みんぱくインテリジェントホール(講堂)(定員160名)
※オンライン配信はございません。

申込期間

■友の会電話先行受付(定員30名)
対象：維持会員、正会員、家族会員
期間：3月18日(金)~25日(金)

■一般受付
オンライン・電話・メール予約
期間：3月28日(月)~4月22日(金)

【特別展「邂逅する写真たち——モンゴルの100年前と今」関連】

大地の静脈

解説 小長谷 有紀(民博客員教授、日本学術振興会監事)

司会 島村 一平(民博准教授)

日時 5月5日(木・祝)13:30~16:00(開場13:00)

参加方法 ①みんぱくインテリジェントホール(講堂)(定員160名)
※オンライン配信はございません。

申込期間

■友の会電話先行受付(定員30名)
対象：維持会員、正会員、家族会員
期間：3月28日(月)~4月1日(金)

■一般受付
オンライン・電話・メール予約
期間：4月4日(月)~4月28日(木)

みんぱく研究公演

伝承する人びと

——北インド古典音楽の世界

演奏 サーランギー演奏：ナカガワ ユウジ、伴奏 グレン・ニービス
シタール演奏：アミット・ロイ、伴奏 クル・ブーシャン・バルガヴァ

解説 岡田 恵美(民博准教授)

日時 6月11日(土)13:30~15:50(開場13:00)

参加方法 ①みんぱくインテリジェントホール(講堂)
②オンライン(ライブ配信)での参加(定員300名)

申込期間

■友の会電話先行受付(定員30名)
対象：維持会員、正会員、家族会員
期間：4月26日(火)~5月6日(金)

■一般受付
オンライン・電話・メール予約
期間：5月9日(月)~6月3日(金)

「友の会ニュース」271号におきまして、第519回みんぱくゼミナールは会場とオンライン
聴講併用の旨お伝えしておりましたが、会場聴講のみの運営に変更となりました。

申込方法

◆友の会電話先行受付
会場参加のみ/申込先着順/本人を含む2名まで
【申込先】千里文化財団友の会事務局
電話 06-6877-8893 (9時~17時、土日祝を除く)

◆一般受付
申込先着順/本人を含む2名まで
みんぱくホームページ内のイベント予約サイトよりお申し込みください。
オンライン以外の受付方法については、みんぱくホームページならびにフライヤー
をご確認ください。

いずれも要事前申込・先着順。参加無料。ただしみんぱく映画会とみんぱく研究公演は、会場参加の場合、要会員証または展示観覧券。
ゼミナール・映画会に会場参加でご予約の方には入場整理券を当日11時から本館2階みんぱくインテリジェントホール(講堂)前にて配布します。

3月・4月のイベントスケジュール

■特別展

3/17(木)～5/31(火)

日本・モンゴル外交関係樹立50周年記念特別展
「邂逅する写真たち——モンゴルの100年前と今」

■企画展

3/10(木)～6/7(火)

「焼畑——佐々木高明の見た五木村、そして世界へ」

●友の会講演会【要予約】

3/5(土) 諸昭喜(※)

4/2(土) 山極壽一、小長谷有紀(※)

●みんなくゼミナール【要予約】

3/19(土) 米谷泰作、佐藤康也、池谷和信

4/16(土) 寺村裕史(※)

●みんなくウィークエンド・サロン

3/13(日) 吉岡乾、3/27(日) 池谷和信、

4/3(日) 野林厚志、4/10(日) 島村一平、

4/17(日) 南真木人、4/24(日) 森明子

●みんなく研究公演【要予約】

3/20(日) 「絆——人をつなぐ太鼓」(※)

●みんなく映画会【要予約】

3/21(月・祝) ヒップホップから見た現代モンゴル社会——映画『モンゴリアン・プリング』から考える(※)

3/26(土) AINU | ひと(※)

4/30(土) 焼畑から見た日本の文化

●その他の催し

3/6(日) 国際シンポジウム「学際研究とフォーラム型情報ミュージアム」(★)【要予約】

【館外での開催】

■巡回展

4/29(金・祝)～6/26(日)

巡回展「驚異と怪異——世界の幻獣と霊獣たち」

会場：高知県立歴史民俗資料館

●催し

3/25(金) 公開講演会「イメージの脈動にふれる」

会場：オーバルホール(大阪市)(※)【要予約】

◆都合によりスケジュールを変更する場合があります。

◆予約の必要な催し、すでに満席になっている催しがございます。また、会場とオンライン配信の併用(※印)、もしくはオンライン配信のみ(★印)で実施する催しもございます。

◆イベントの参加には必ず会員証をご持参ください。

友の会講演会のご案内

事前申込先着順です。友の会ホームページ内の受付フォームをご利用ください。

会場とオンライン配信より、参加方法をお選びいただけます。

4月は特別展関連の講演会です。

会場ならびに参加対象が異なります。

5月はオンライン配信がございません。

■4月

会場：みんなくインテリジェントホール(講堂)(定員160名)

参加対象：維持会員、正会員、家族会員、ミュージアム会員、キャンパスメンバーズ、みんなくフリーパス

※会員以外の方も、会場での聴講はご参加いただけます(500円)。

■3月、5月

会場：第5セミナー室(定員40名)

参加対象：維持会員、正会員、家族会員、ミュージアム会員、キャンパスメンバーズ、

※メイン会場が満席の場合は、中継会場(第3セミナー室/定員17名)にご案内いたします。

※会員以外の方も、会場での聴講はご参加いただけます(500円)。

第522回

病の語りにさぐる

——産後風と韓国女性の生活

講 師：諸 昭喜(民博助教)

日 時：3月5日(土)13:30～15:00(開場13:00)

参加方法：①第5セミナー室での参加

②オンライン(ライブ配信)での参加

受付フォーム <https://www.senri-f.or.jp/522tomo/>



第523回

特別展関連の友の会講演会はみんなくフリーパスをお持ちの方も無料です！

【特別展「邂逅する写真たち——モンゴルの100年前と今」関連】

モンゴルとSDGs

講 師：山極 壽一(総合地球環境学研究所所長)

小長谷 有紀(民博客員教授、日本学術振興会監事)

日 時：4月2日(土)13:30～15:00(開場13:00)

参加方法：①みんなくインテリジェントホール(講堂)での参加

②オンライン(ライブ配信)での参加

持続可能でよりよい世界を目指す国際指標 SDGs。17の目標の達成には環境問題の解決が大きく影響します。自然・人文・社会科学の総合的な視点で環境問題をとらえる総合地球環境学研究所(地球研)が設立されて約20年。地球規模の環境問題は解決に向かっていくのでしょうか。地球研の取り組みについてうかがいながら、モンゴルを例に考えてみましょう。

受付フォーム <https://www.senri-f.or.jp/523tomo/>



第524回

【企画展「焼畑——佐々木高明の見た五木村、そして世界へ」関連】

佐々木高明を語る

——研究とその人物像

講 師：ヨーゼフ・クライナー(ボン大学名誉教授)、宇野 文男(元福井大学教授)、池谷 和信(民博教授)

日 時：5月7日(土)13:30～15:00(開場13:00)

参加方法：第5セミナー室での参加

※5月はオンライン配信がございません。

国立民族学博物館第2代館長を務めた佐々木高明は、焼畑研究の第一人者、照葉樹林文化論の提唱者のひとりとして知られています。生前の佐々木とゆかりの深い話者3名による対談をととして、研究者という側面にとどまらない佐々木高明の素顔に迫ります。

受付フォーム <https://www.senri-f.or.jp/524tomo/>



ぼくのみんなく日記

画・中川洋典



■第519回■2021年12月4日(土)

「企画展」躍動するインド世界の布「関連」

着るだけではない布

— 役割や機能に注目して

上羽 陽子(民博准教授)

これまでインドについては、一枚布を巧みに変形させて、多様にまとう着衣文化があることが注目されてきました。しかし、インドにおける布は、衣装としてだけでなく、人生儀礼における贈与や、神がみへの奉納、社会運動でのシンボルといった多様な役割を担っています。本講演は企画展関連として、企画展の概要と展示資料でもある女神儀礼用染色布について取り上げました。

女神儀礼用染色布は、インド西部グジャラート州でヒンドゥー教の女神を崇拝する一部の下層カーストの人びとの間で用いられています。彼らの多



鶏の上に乗ったヒンドゥー女神の染色をおこなう職人の娘
(インド、グジャラート州、アフマダーバード、2010年)

くはかつて不可触民とみなされ、ヒンドゥー寺院に立ち入ることが許されていませんでした。そのため、彼らは居住区域に自らヒンドゥー女神の祠を建て、女神儀礼を執行してきました。その際、女神儀礼用染色布は数枚を組み合わせて間仕切り布や天蓋として使用されてきました。儀礼において神と人をつなぐ場所として聖なる空間をつくりだす役割を担っているのです。さらにこれらはアイコン画としての機能も持ち、人びとは女神の力にあやかろうと、染色布の図像を人念に見比べて選り抜いています。

このように布は時と場所、使途に応じて、あるいは宗教的規範や社会的慣習によって、用いられるかたちや色、文様が異なり、その扱われ方も場面ごとに明確に定められています。人びとは場面に応じて多種多様な布のなかから目的や機能に適したものをを選び、使い分けているのです。そのような人びとと布の多様な関係性は、多宗教、カースト制度、数百年を超える言語といったインド社会の特質と深く結びついています。

■第520回■2022年1月8日(土)

家を廻る芸能のいま

— 伊勢大神楽の活動を中心に

神野 知恵(人文知コミュニケーション、民博特任助教)

本講演では、家を廻る芸能の多種多様な姿を紹介し、その存在意義について考えました。講演者は韓国の「農楽」の演者に混ざり、旧正月の祭りで家々を廻って太鼓を叩き、村人の福を願う行事に参加しました。その経験をもとに、韓国と日本で、家廻りの芸能に注目し、調査を続けてきました。日本の場合、正月だけでなく、盆の死者供養のための家廻りや、地域祭礼の際の獅子舞や山車組などによる家廻りを、現在も各地で見ることが出来ます。また、韓国の映画「男の男」でも有名になった「男寺堂」などと同じように、日本にも「男寺堂」や「萬歳」など、家々での「門付け」を生業とする芸能者が多様に存在しましたが、その多くは戦後に姿を消しました。そんななか、伊勢大神楽は現在も、年間を通じて決まった地域を訪れ、厄祓いの獅子舞と曲芸を演じて家々の清め祓いをおこない続けています。これまでの研究では、こうした地域外部からの専門家による門付けと、地域の人びとによる家廻りを明確に区



伊勢大神楽山本源太夫社中の回檀の様子
(滋賀県、2021年2月)

分して記述してきました。しかし、地域の人びとが大神楽から笛や舞を習ったり、仕事の手伝いをするなど、両者間には強いつながりを見ることが出来ます。また大神楽の廃業後に、地域の青年団が獅子舞で家廻りをおこなうようになってきた地域も見られます。このことから、本講演では、家を廻る行事について、生業であるかどうかについての区別を越えて、包括的・体系的にとらえて検討する必要がある点について主張しました。

本紙掲載の情報は、2022年2月22日時点で決定している内容です。新型コロナウイルス感染症の影響等により急遽予定を変更する可能性があります。

お問い合わせ、お申し込みはこちら

友の会はいつでも、どなたでもご入会いただけます。

国立民族学博物館友の会

公益財団法人 千里文化財団

〒565-8511

大阪府吹田市千里万博公園10-1(国立民族学博物館3階)

電話：06-6877-8893(平日9:00~17:00)

FAX：06-6878-3716

e-mail：minpakutomo@senri-f.or.jp

国立民族学博物館 最新情報



ホームページ
<https://www.minpaku.ac.jp>



Facebook
<https://www.facebook.com/MINPAKU.official>

国立民族学博物館友の会 最新情報



ホームページ
https://www.senri-f.or.jp/minpaku_associates/



Facebook
<https://www.facebook.com/minpakutomo/>